

# RPF製造が追加決定

## 外国人技能実習制度の認定職種

### 環境・リサイクル部門では業界初



厚生労働省の担当者から通知を受ける（一社）日本RPF工業会・長田和志会長(左)

（一社）日本RPF工業会（東京・千代田、長田和志会長、☎03・6206・8000）は2019年からRPF製造職種を外国人技能実習制度に追加する申請作業を進めてきたが、1月8日付で職種追加の省令改定が行われ、同時に「技能実習評価試験実施機関」として同工業会が認定された。同工業会では、「申請にあたっては、環境省と経済産業省の全面的な支援を

受けることができた。廃棄物関係の職種では初めての職種追加であり、日本が誇る環境意識、廃棄物処理技術が、一貫した製造基準、生産工程として規格化され、公に認可されたことは業界の新しい歴史を開いたと言っても過言ではない」と述べている。

RPF製造職種は、使用済みプラスチックと古紙その他の可燃物廃棄物を混合した固形燃料を製造する職種。

RPFはJISZ7311で規格化され、使用用途に応じた品質規格が規定されている。石炭と比較して約3分の2のCO<sub>2</sub>排出量で新たな化石燃料が削減され、地球温暖化対策に寄与できる。高品位な産業用燃料として、国内では年間約160万ト製造され、製紙業界をはじめとする自家発電設備で利用されている。

今回の職種の追加決定によって、海洋プラスチックや都市浮遊ごみなどで大きな環境問題を抱えているアジアの開発途上国からの使用済みプラスチックの処理方法とRPF製造技術の関心、技術移転要望に応えることが可能になり、単なる環境

機械・設備の応援のみならず、技能実習を通じて広く技術移転が実現され、将来的な海外の人材育成や社会貢献に資することができ

（一社）日本RPF工業会は正会員66社、賛

助会員56社からなる（1月8日現在）。今後、認定された準公的機関として、社会的公平さを担保し、技能評価試験を実施することが求められていることを認識し、試験の運営を行っていく。